



今月の研究成果トピックス (アグリサーチャーHPより)

施設園芸の省エネルギー化に有効で、取扱い やすい「ナノファイバー断熱資材」の開発

保温・遮熱性能が高く、取扱いやすい断熱資材をご紹介します

施設園芸では、暖房等の省エネルギー化の推進及び暑熱対策が重要で、多層断熱資材がそれらの解決策として注目されています。しかし、多層断熱資材は、従来の資材より厚く、収束性が悪いこと等の欠点がありました。

そのため、農研機構を中心とした共同研究により、薄型・軽量で、取扱いやすく収束性も向上したナノファイバー断熱資材を開発しました。

研究機関：農研機構西日本農業研究センター

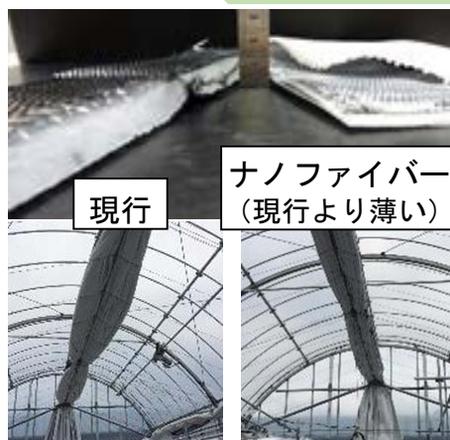
研究者：川嶋 浩樹(ほか10名)



■研究成果



■マニュアル



従来の多層断熱資材とナノファイバー断熱資材の比較

研究者の声 川嶋 浩樹さん



今回開発したナノファイバー断熱資材では、薄型化により、収束性が改善され、日影が少なくなりました。本資材は従来の資材より高価ですが、暖房費等のコスト減により、7年の耐用年数の3年目以降は利益が上回ります。本資材は2018年から市販され、利用マニュアルも農研機構から公開されています。資材の効果を広く知っていただくことで普及を図り、省エネに貢献したいと思います。

■ この資材を製造・販売する資材メーカー担当者の声

多層断熱資材は農業用被覆資材において他に類を見ない高い断熱性を有しています。しかし、多層構造がゆえに、展張時の作業性、収束時の影の大きさが大きな課題でした。それがナノファイバーを使用することで従来品の20%から30%も軽量化され、展張時の作業性、開閉時の収束性が改善されました。

■ Webアクセス情報 (2019年6月)

訪問者数: 8, 486名 (累計: 221, 626名)

■ イベント情報

- ・農研機構サイエンスカフェ 第11回 美味しい牛肉はどのようにして作られるのか?
8月17日(土曜日)10時00分~11時30分
大穂交流センター研修室(茨城県つくば市)
- ・東北農業研究センター
大仙研究拠点「一般公開2019」
8月24日(土曜日)9時30分~14時00分
農研機構東北農業研究センター大仙研究拠点
(秋田県大仙市)

[このほかの情報はこちら](#)



スマートフォンから手軽に研究成果・研究者を検索！



アグリサーチャーにロボットとの対話型検索システム（チャットボット）を本格導入しました

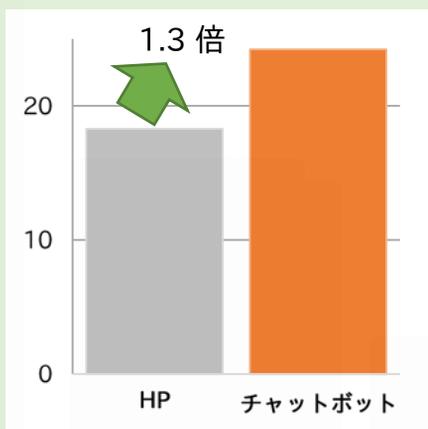
「アグリサーチャー」の利便性の向上と利用拡大に向けて、2019年1月17日から3月末までロボットとの対話型検索システム（チャットボット）を試験導入し、800名を超えるユーザーに活用いただいた結果、その効果が認められましたので、4月25日から本格導入しました。

※「チャットボット(Chatbot)」とは、チャット(会話)とボット(ロボット)を組み合わせた言葉で、人工知能を活用した「自動会話プログラム」のことです。

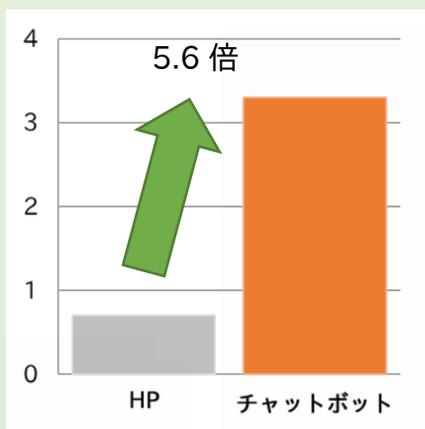
試験導入の成果

※ 数値は試験導入期間の1ユーザ当たり数

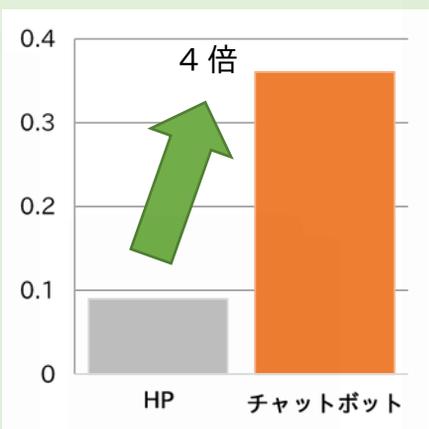
①クリック数



②検索数



③研究成果情報へのアクセス数



※ アクセス数上位20位までの研究成果を比較

対話型検索システムはHPより簡単に検索でき、研究成果情報へアクセスしやすい。

ユーザーアンケート

Q1 使いやすいですか。

選択肢	選択数	割合
☆☆☆☆☆	6	7%
☆☆☆☆	15	18%
☆☆☆	37	45%
☆☆	19	23%
☆	5	6%
合計	82	

※ 星が多いほど使いやすい

Q2 今後も続けるべきですか。

選択肢	選択数	割合
続けるべき	19	23%
改善しながら続けるべき	56	68%
どちらとも言えない	7	9%
やめるべき	0	0%
合計	82	

Q3 何を改善すべきですか。

選択肢	選択数	割合
検索機能の強化	27	33%
研究成果情報の充実	40	49%
会話機能の充実	8	10%
その他	7	8%
合計	82	

研究成果情報の充実と検索システムの改善を図りつつ、今後も継続すべきとの声が多い。

今後も研究成果情報の充実や検索システムの改善等、より一層の利便性の向上を図ります。

登録はこちら

